



「ささえ～る」

広報委員会

※『ささえ～る』とは、「佐々木」・「ささえる」・「エールを送る」の意味を込めた造語です。

作業療法
作品展



院長

菊野 恒明

今年初めての「ささえ～る」の発行である。昨年10月のマイナンバー制度、12月のストレスチェック制度と、職場環境の変革が続いている。特にマイナンバーは難解だ。どちらも共通して言えることは、個人情報保護が大事だということである。

当院では不定期ながら個人情報の勉強会を4人のメンバーで、こつこつと続けている。個人情報保護法の趣旨は、「院内に指針とか、考え方の一文を掲げてこと足れり」というものではないはずである。法の本来の意味への理解が少しでも深まればと願い、この勉強会を立ち上げて回を重ねている。今年は、新しい制度も踏まえ情報共有と管理に力を入れていきたい。

一方、個人的にわたしは趣味で短歌をやっている。人は私の歌を「ただごと短歌」と言うが、自分では、「無意識からしぼり出す」無意識短歌と思っている。

この夜は 眠れぬ夜と なるだろう
告別式の 前夜の寡婦は
球面に 静かに坐り 浮かびくるを
詠う無意識 短歌と言えり
過去と言ひ 未来と言えり 幻想を
今この時を いつくしみつつ

4月には診療報酬改定もあり、慌ただしい1年となりそうだ。今年も職員と一緒に、病院を盛り上げていきたい。

アンダンテ：就労支援プログラム（愛称：就労クラブ）

平成27年1月より就労支援の一環として、プログラムに『就労クラブ』を立ち上げました。具体的に毎週月曜日に就労に当たっての基本を学び、金曜日にパソコンを中心に就労のスキルを磨き、木曜日に作業体験をします。

実は私自身就労支援の専門家ではなく、全くの門外漢ではありますが、職業支援専門機関等の見学やこれまでの社会経験を活かして、参加されるメンバーさん達と『働くとは一体何なのか』を一緒に考えていきたいという軽い気持ちで始めました。

初めての試みと私自身の力不足で、当初の予定通りにことが運ばず、参加されたメンバーさんには少なからず迷惑をお掛けしました。しかし回数を重ねるごとに、就労の輪郭が少しずつ掴めてきた、施設見学を通じて就労支援機関を知った、作業体験から集中力や持続力が養われた、パソコンでグラフが作成出来るようになったとのメンバーさんからの声が聞かれました。



【就労クラブ風景】

上、右下：勉強会風景

右上：パソコン演習



就労支援プログラム（愛称：就労クラブ）
（月・金の午前、火・木の午後／8週ワンクール）

仕事をしたいという目標を持った方が集まり、勉強会や簡単な作業の体験、パソコンの練習などをします。詳しくはアンダンテ職員もしくは佐々木病院福祉支援室職員までお尋ねください。

※「就労クラブ」の詳細はホームページにも掲載されております。

その声に慢心するのではなく、メンバーさんに助けられてきたとの感謝の気持ちでいっぱいです。

メンバーさんの働く想いは、お金がほしい、自分の居場所がほしい、社会に認められたいと様々だと思います。どれが正解ではなく、様々な想いを大切にしながら、メンバーさんの自己実現が叶えば幸いです。

『就労クラブ』に関心興味のある方は、いつでもアンダンテか福祉支援室までお尋ねください。

精神保健福祉士 坂本道紀

家族教室レポート

平成27年9月7日(月)

当院デイケア家族会は発足して5年目を迎えます。主な活動内容は「精神疾患に関する知識」や



「地域の精神保健福祉」に関する学習です。今回は、テーマを「介護保険の利用と現状について」とし、ケアパートナー富山主任介護支援専門員である岩城晴美様に講演していただきました。ご家族が将来に向けて変化する家族状況に対して、介護力の不安が大きくなると思ったからです。活発な質疑応答があり、皆様の関心の高さがうかがえました。

講演の後、小グループに分かれ座談会の時間を設けました。回数を重ねるごとに参加される皆様が顔なじみとなり、気持ちが分かち合えるのでしょうか。にこやかに話が弾む姿を見て、私たちスタッフはともうれしく思いました。

スタッフもグループに参加します。スタッフにとって、この座談会は、デイケアにおける日ごろの気がかりな点やお願いなどをご家族と一緒に話し合える貴重な時間です。

今後ともご家族とともに、よりよい暮らしができるよう支援体制づくりを目指してまいります。

平成27年12月7日(月)

平成27年最後の家族会のテーマは「チャレンジ！！今

年の活動を振り返って」でした。今回は、メンバーさんが積極的にプログラム等にチャレンジされている様子をビデオに収め、デイケア主任である高松から映像の説明を交えながら、ご家族に観ていただきました。日ごろ、ご家族が目にすることの少ないデイケアの様子をお伝えすることができ、ご家族からとても好評でした。

そのあとに行われた恒例の座談会では、3ヶ月ぶりに会ったご家族同士が近況を伝えておられました。また、新しく参加されたご家族に対して、ピアサポート的な立場でアドバイスもされておられました。この座談会が、お互いの心のよりどころの場となってきたようです。一方、スタッフにとって、ご家族の視点での発言で新しい気づきを教えていただくことが多くあります。

アンダンテでは、昨年からは個別グループのプログラムを増やしました。各メンバーさんが発言しやすい雰囲気になったようです。リーダーシップをとられるようになるなど、積極的に行動する方が増え、良い変化が生まれました。さらに、マイクを通して日課等を順番に読み、自分の声で全員に向けて声がけすることも始めました。それも自信につながったと思います。スタッフにとってどちらもうれしい出来事でした。

これからも私たちスタッフは本人が力を十分に発揮できるように支援してまいります。

デイケアスタッフ 藤井

第3回院内看護研究・活動発表会に携わって(平成28年2月24日開催)

院内看護研究・活動発表会は、平成26年よりはじまり今回で3回目の発表会となった。今回の看護研究・活動発表は、量的研究や質的研究で4つの部署より演題4席の特色ある内容であった。各演題の発表内容聞き、日々の業務の中から研究の対象になる事柄があるとあらためて考えさせられたり、課題として投げかけられたりした。

その後、敦賀市立看護大学精神看護学教授である長井先生が「楽しく学ぶ看護研究」と題し講演された。とても分かりやすい内容で、看護研究をこれから取り組む職員にとって参考となった。また、今回の看護研究・活

動発表に取り組んだ職員にとっては、内容をふりかえり、より良い研究・発表へとステップアップするものであった。

最後に、看護研究・活動発表を行い始めて3年がたち、

看護研究・活動発表に対する職員の取り組む姿勢が変化してきた。そのことが感じられ良かったと考える。また、今後も継続して看護研究・活動発表会を開催して、職員全体のスキルアップができる機会にしていきたい。



教育研修委員会 松島

病院行事レポート

七夕祭り(平成27年8月6日)

例年通り七夕祭りをとり行いました。今回は、ゲーム感覚で皆さんと一緒に楽しんでもらおうと企画してみました。

午前は、縁日の露店をイメージして、くじ引き、輪投げ、魚釣りゲームを出店してみました。行列のできるお店ではないのですが、皆さん列になって参加されていました。後からどうだったか感想を聞くと、楽しかったとお礼を言われ、企画に満足できました。

午後は、恒例の模擬店でした。今回も衛生面に配慮しながら、暑い中声を上げて頑張ってみました。中には初めての試みもあり、上手く出来なかった面もありましたが、ベンチに座っている皆さんの様子や声には活気が漲っておりまして。毎年のごとく、大きな期待を寄せられている中、何とかその声に応えられたのではないかと思います。

次回、どのようなものになるのかはまだわかりませんが、治療環境の中で生活されている方々のオアシスになればと、趣向を凝らしたいと思っています。



クリスマス会(平成27年12月20日)

今回のクリスマス会は「音楽」を大きなテーマとして、企画しました。午前の部は、松本チコ氏をお招きして多国籍で上質な音が流れるコンサートを開催しました。

午後の部は、当院名物?となっている劇を行いました。

何しろ今回は音楽がテーマです。劇もミュージカル仕立てにやってみましたが、不慣れなもので、いざ、歌って踊る!となると、勝手が解らず苦戦しました。それでも、会場からは温かい拍手を頂きました。演者のスタッフも一生懸命演じてもらい感謝しています。

会場全体で合唱した後、皆さんが楽しみにされていた大抽選会を行いました。参加賞から大当たりまで、皆さんプレゼントを手にして喜んでおられました。

毎年、皆さんの療養生活にとって、いい意味での刺激になればと運営していますが、今年も好評だったようで、委員としても嬉しく思っています。



松本チコ氏による演奏



ミュージカル
「北アルプスの少女ハイジ」

活動療法委員会 福井

新入職員インタビュー

並川 (看護師)

- ① ゆっくりと時間がながれ、ゆっくりと仕事ができる。
- ② 子供たちと遊ぶこと。
- ③ 患者、スタッフに信頼されるよう、安心・安全な看護の提供を心がける。



瀧根 (看護師)

- ① 職員の方々がとても親切で優しく接してくれると思いました。
- ② ゴロゴロする事。
- ③ 皆様に信用・信頼されるように頑張りたいです。よろしくお祈りします。

- ①佐々木病院の印象は?
- ②趣味は
- ③今後の抱負を一言で!

北 2 階 看 護 室 移 動 ・ 改 築

第2病棟は、昨年10月に手狭だった看護室から、新しい看護室へ移動しました。それに伴い開放の男子と女子で分かれていた看護室が合同となりました。看護提供の面で、サブ看護室は残りますが、新たな第2病棟として生まれ変わり、職員も活気にあふれています。

今まで、開放の男子と女子でそれぞれのカラーをもちましたが、一つとなったことで新しい視野が広がり、患者さんへの関わり方や看護展開の領域が広くなりました。一方で、当初は一日の流れに不慣れであったり、患者さんの把握に苦労したりと、患者さんやご家族にご迷惑をおかけしました。

それからあっという間に5ヶ月が経ち、病棟運営やシステムも軌道に乗ってきました。合同になるということは、どちらかの意見を消すことではなく、今までよりさらに選択肢を増やせることだと思います。

これからも職員がいろいろな意見を述べる事が出来、お互いの視野を広げるような病棟運営をしていきます。そして、患者さんへより良い看護を提供できるよう努め、盛り上げたいと思います。



第2病棟看護師 田辺

栄 養 コ ラ ム

「食べることの意義」

皆さんは、「自分たちが何故食事をとっているのか？」ということを考えてことがありますか？コミュニケーションの手段としての食事、美味しいもの、好きなものを食べた時の幸福感を得ることなど、食べることの意義は色々あります。

生きるため、人は食べ物を口からとっていただきますが、なかには身体上の理由から、口から食べることが出来ない人がいらっしゃいます。点滴や胃瘻（いろう）の是非はさておいて、私たちが当たり前に行っている食べるという行為は、実はとても尊いものではないかと、仕事をしていて思うことがあります。ですから、1番の目的は「生きるため・生命を維持するため」だと思います。

ある日突然食べられなくなるというのは、とても耐えがたいものだと思います。「幸せを噛みしめる」という言葉がありますが、食べられることの喜びを今一度、毎日の食事の際に思い出して下さい。



管理栄養士 今泉

部 署 紹 介 : 外 来 受 付

私たち、外来受付部門では、大きく分けて窓口業務と保険請求業務があります。窓口業務とは、主に来院された方々の受付・対応です。保険請求業務とは、診療費（入院・外来）の計算と出納、及び診療報酬明細書（レセプト）を作成し保険者に請求する業務です。

受付や会計は、患者さんや来院される方々と接する機会が多い部門です。皆さんには快適かつ円滑に診療を受けていただけるよう外来待合室の環境を整え、「親切」「丁寧」「明るいあいさつ」をモットーにしております。また、他部署と協力し、きちんとした業務が行えるよう日々励んでおります。



患者さん一人ひとりが治療に専念していただくために、少しでもささえ～（支える）ことが出来るように外来受付部門一同、今後とも努力してまいります。

医療費や保険等、お問い合わせがございましたら、お気軽に外来受付までご相談ください。

医事課 京田



編 集 後 記

新しい年を迎え随分と寒くなったと思っていましたが、あっという間に2ヶ月が過ぎ温かさを感じる日が多くなってきております。皆様いかがお過ごしでしょうか。冬の間に食べたくなるものといえば、やっぱり鍋でしょうか？トマト鍋、塩ちゃんこ鍋、キムチ鍋、とり野菜鍋など年々レパートリーが増えているように感じます。まだ寒い日もあり、栄養満点の鍋などを食べて温まりたいものですね。皆様も風邪などひかないよう健康管理に気を付けて、新しい年を楽しみましょう。今年もどうぞよろしくお願いたします。

広報委員会 笹山



医療法人社団 重仁 佐々木病院

住所 〒939-8073 富山県富山市大町1番地
電話 (076)425-2111 / FAX (076)425-2112
ホームページ <http://www.sasakihp.or.jp/>

精神科デイケア・精神科デイナイトケア・精神科ショートケア

ア ン ダ ン テ

電話 (076)423-2114(直通)

指定障がい福祉サービス事業所

フ ィ ー ル ド ・ ラ ベ ン ダ ー

住所 〒939-8073 富山県富山市大町3-4
電話 (076)495-1555 / FAX (076)495-1666
ホームページ <http://www.field-lavender.net/>